

消えた三日月様

下小倉の里に三日月様と呼ばれる石仏が祀られていました。石仏は、直径二十七センチ程の球形であり、参拝者は願い事を唱えながらこの石仏を持ち上げます。

この石仏が軽々と持ち上がれば願い事はかないませんが、なかなか持ち上がらない時は願い事は、かなわないといわれていました。上小倉の里にも三日月様があるのですが、それとまったく同じものであり、兄弟であったのではないでしうか。

ところが、この三日月様は不思議なことに何度も姿を消してしまわれ、そのたびに一人の村人が新しい三日月様を祀り続けてきたそうです。

大正年間のころのことですが、村人の話によりますと、この三日月様のご利益がたいそうあるということが近隣に知れ渡り、ここを訪れる人が日増しに多くなっていたそうです。



消えた三日月様

そんなある日のこと、あろうことか、三日月様がその場所から忽然とお姿を消されてしまわれたのです。村人は、

「わしらの困ったときに、どんな願い事もかなえてくれたありがたい三日月様であんしたが、どこさ行ってしまったんだべか。」

とがっかりしていました。その後、村人は、鬼怒川に行き、もとの三日月様とまったく同じような石を探して、その場所に祀ったのでした。

不思議なことにその祀られた石もまた人々の願い事をよくお聞きになられました。しばらくすると再びその三日月様も姿を消してしまったのでした。

村人たちは、

「誰か心ない人が、持って行ってしまったんだべか、ごせやげんな。」

と途方にくれるばかりでした。もの知りのある村人は、

「三日月様は、『わしの、この土地での仕事は終わった。まだまだ世の中には色々苦しんでいる人々が、ほかにもいるはずじゃ』とばかり、こっそりとお姿を消してしまわれたのではあんなめか。」

ときさやくのでした。

ともあれ、こんなことが幾度か繰り返され、現在の三日月様は四代目になるとのことです。

どこにいかれましたのか、これまでの三日月様も風のたよりでは、どこかで困った人々をお救いなさされているのだとか……



三日月様については、三月三日に女房たちが三日月講といわれる集まりをもち、三日月様を信仰したのが始まりといわれています。主として婦人病等に効き目があるとして崇敬される石仏です。この信仰は、和歌山県加太村の淡島信仰と同一のものであるといわれています。